

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0991100108		
法人名	医療法人社団 湘風会		
事業所名	グループホーム ラパス		
所在地	栃木県矢板市泉557-1		
自己評価作成日	平成28年12月 28日	評価結果市町村受理日	平成29年2月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/09/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/09/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 アスク
所在地	栃木県那須塩原町松浦町118-189
訪問調査日	平成29年1月25日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域のボランティア(和太鼓・民話・ハーモニカ手品・踊りなど)の受け入れや地域の行事(公民館まつりに作品展・自治公民館夏祭りの模擬店で食事)隣接している中学校からの招待をいただき楽しいひと時を過ごしています。また、朝食・おやつは毎回手作りの食事を提供しており、畑で収穫した野菜やお店まで行きおかずを選んで献立にしています。そして、毎食前には口腔体操をして「いただきます」の号令を交代でしています。食事中は、BGMとしてクラシック音楽を流しています。日々の活動として午前は、比較的体を動かす内容で、午後は静かな塗り絵や脳トレーニング(ことわざ・算数・穴埋めなど)などのプログラムを実施しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所では「利用者を寝たきりにさせない」という思いで、体操や脳トレーニング等を日課として取り入れ、利用者の健康維持、筋力体力作りに積極的に努めている。職員は何気ない普段の生活の中で、「ゆっくり」「一緒に」「楽しみながら」という理念を自然体で実践していると感じている。職員同士の連携も良く、上司にも意見を言い易い職場であり、職員の明るさが事業所の雰囲気を明るくしている。近くには中学校、公民館、保育園、自治公民館などの公共施設があり、民家も多い。中学校からは運動会への招待を受けたり、事業所が職場体験の中学生を受け入れたりと交流がある。保育園児も毎年訪れて一緒にゲームをしたり肩を叩いてもらうなど、交流を楽しんでいる。隣接するお寺には初詣に行っている。矢板市でボランティアに参加するとポイントがもらえる制度が始まり、手話、太鼓、踊りなど、以前にも増してボランティアの来所が増えている。恒例になった秋祭りではボランティアの叩く太鼓の音で集まってくる参加者も増え、祭りを楽しむと共に事業所内を見学してもらい、事業所を知ってもらう機会作りにもなっている。避難訓練にも民生委員が参加してくれるなど、地域とのつながり、地域住民との交流に積極的に取り組んでいる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である「ゆっくり」「一緒に」「楽しみながら」をふまえて利用者様に日々寄り添い自分で出来ること出来ないことを見守っています。	職員は、日頃理念について特に意識はしていないが、利用者と共に日課のレクリエーションをしている時など、何気ない普段の生活の中で、「ゆっくり」「一緒に」「楽しみながら」という法人のグループホーム共通の理念を自然体で実践していると感じている。事業所独自の理念はまだできていないが、今後、「今年の目標」という形で考えていきたいと思っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	こもれびと合同行事(秋祭り)の実施や隣接する中学校(運動会見学)そして公民館(作品発表・見学)へ全員で参加しています。	ボランティアに参加するとポイントがたまり、商品券と交換できるという、市の「ポイント制度」が始まったおかげで、踊り、大正琴、ハーモニカ、フラダンスなど、ボランティアの来訪が増えている。近隣にある保育園や中学校との交流、中学生の職場体験や大学の実習生受け入れも行っている。地域の公民館祭りに参加したり、事業所の秋祭りに近所の人達を招待するなど、地域との関係は良好である。	前年の目標達成計画に盛り込んだ、近所の人達が気軽に来所できるオープンカフェを企画したいという希望は、まだ実現されていない。地域とのつながりを深めるためにも、実現に向けての努力を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族様・地域住民の方々と共に認知症を理解していただく場を設けて研修したいと考えています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区長や地域住民の方の意見を伺い公民館活動や地域の行事などに参加しています。	運営推進会議は2か月に一度、年6回行われ、民生委員、区長、市職員、地域包括職員、利用者の家族、地域住民等が参加している。行事の写真を添えての運営状況の説明や意見交換を行い、事業所側が地域の情報を得る場ともなっている。参加できなかった職員には、定例会で内容を伝え、周知を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	矢板市主催の勉強会に出席するなどグループホーム部会にも参加して情報交換をしています。	市の担当者とは、日頃から密に連絡を取り合っており、運営推進会議にも毎回参加してくれている。市主催の勉強会で認知症や薬について学んだり、市の5つのグループホームとの交流会や事業所見学にも参加し、言葉かけなどケアの参考にする等、よりよい関係構築に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のマニュアルを読み合わせする研修の実施や事例が生じた場合は、速やかにご家族と職員間で情報を共有するように努力します。	法人としての身体拘束に関するマニュアルがあり、年1回勉強会を行っている。玄関に鍵はかけず、利用者が外へ出ようとするときは職員が付いて行って見守っている。ベッドから落ちる心配のある利用者には、低床ベッドや、床に布団を敷くことで対処している。言葉のかけ方など、職員同士で注意しあいながら、スピーチロックなどがないように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会で話し合いをして常日頃の言動に気配りしながらご利用者様一人ひとりに対応しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については内容を深めるために外部講師による勉強会で理解を深めるように努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時は、管理者・ケアマネジャーが中心となりご家族に十分な説明をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様やご家族様からの要望や苦情がある場合管理者・ケアマネジャーが中心となり施設長に状況を報連相しながら助言をいただき対応しています。	玄関に「ご意見箱」を置き、家族が来所した時なども意見や要望を聞くよう努めているが、ほとんど意見等はない。利用者からは、「部屋が寒い」「一人席になりたい」などの要望が聞かれた。まずしっかりと聞き取りを行い、確認をして、できるだけ要望に沿うよう努力しながら、一人ひとりに合った対応を心掛けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1度の定例会議に出席して意見交換・情報交換に努めて施設長から助言をいただいています。	毎月の定例会では、行事や業務の流れ、改善点について話し合っている。事前に、参加できない職員も含めて全員の意見を一覧表に作成し、それを基に話し合いを行っている。協議の結果、脱衣所から浴槽まで手すりが設置され、入浴介助が安全で便利になったという事例がある。話し合った内容は、議事録を作って回覧し、職員全員の周知を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長が、適宜時間を設けて個人面談を実施して意見・要望を聞いていただき助言をいただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	矢板市が主催の認知症に関する講演会に参加したり順次認知症実践者講習の参加に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	矢板市内のグループホーム部会に出席して施設訪問や情報交換に努めています。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談しやすい雰囲気と解りやすい言葉で要望を聞き取り信頼関係を築くようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談来所時や契約前などの話し合いでご家族が一番困っていることを中心に聞いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族からの聞き取りを中心にニーズを把握しご本人が気持ちよく過ごせる方法を提案しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様の個々の出来ること出来ないことを把握し共に生活していく中でお互いに助け合いながら良い関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や通院などで来所した時にご家族との会話を通して最近の様子などを伝えたりご家族からの要望を聞いたりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用以前の知人の面会や地域行事に参加した時に近況を伝えたりご本人とお話をしています。	毎月の支払日には、遠方の場合を除き、ほとんどの家族が面会に来ている。自宅が近い場合は、知り合いが訪ねてくることもある。家族が付き添い、定期的に墓参りに行ったり、入所前から通っていた美容室に、家族の協力で通い続けている利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様の性格・言動に対して順次職員間で話し合い座席を移動するなど検討しながら様子を見ています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院へ入院した場合は、面会に行き看護師やご家族そしてご本人と話をしながら情報共有をしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様一人ひとりの思いを把握しご本人のしたい生活に少しでも近づけるように職員と共に検討しています。	家族が面会に来た時など、ケアマネージャーが中心となって、世間話をしながら思いや意向の聞き取りに努めている。食事に関するリクエストや希望は、手作りしている朝食で臨機応変に対応している。外食や外出希望は、花見やあじさい見学、リンゴ狩りといった行事等で、叶えられるよう努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時・来所時にご家族に話を聞いたりご本人との雑談などで希望を聞いています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の挨拶時やレクリエーションに参加しながら表情や体の動きで体調の変化を見ています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成後のモニタリングを職員と共にを行い必要があればケアカンファレンスを行っています。	ケアマネージャーは本人や家族と面談しアセスメントした結果をまとめて原案を作り、さらに家族と相談をして介護計画を作成する。毎月の会議で居室担当者から聞き取った内容を確認してモニタリングを行い、必要に応じて計画の変更を行っている。一人で立ち上がれなかった利用者が、筋力をつける運動を日課とすることを計画に盛り込んだところ、立ち上がれるようになり、本人のやる気を引き出すことが出来たという事例がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	勤務で介護をすることもあるので職員に聞き取りを行い情報を共有することに努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	天気の良い日には、テラスに出たり前庭でレクリエーションをして心地よい環境作りに取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの来所回数を増やし楽しい時間を過ごせるように努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院受診時は基本的にご家族様をお願いしていますが、遠方に住んでいるご家族様や状態が急変した場合には、ケアマネジャーが中心となり同行して情報を伝えています。	家族の付き添いで受診する時は診察の参考に日頃のバイタル表を渡し、受診後は家族から口頭で結果を聞き、個人経過記録に記入して情報を共有している。仕事で受診時間がとれない家族には、ケアマネジャーが利用者につき添い病院で家族と待ち合わせる等して負担軽減に協力している。救急時情報提供票を作り、緊急時、急変時に対応できるよう備えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接している事業所(こもれび)の看護職と情報共有しながら助言をいただいています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の時は、ケアマネジャーが中心となり病院へ行き担当看護師と情報交換に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ケアマネジャーが中心となりご家族の要望や当施設で可能な内容を職員と話し合い施設長の指示のもと適切な情報をご家族に伝えています。	事業所として現在は看取りができないことを入所時に家族に伝えており、家族から看取りについての相談もでない。今後グループホームとして看取りは必要になると捉え、法人合同の研修会への参加や事業所でターミナルケアの勉強会も行う予定で、職員が安心できる体制を作りたいと考えている。	ターミナルケアについて学習することは日常のケアのスキルアップにもつながると思われるので、今後も研修、学習会等の継続を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルの読み合わせや訓練の実施に努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期訓練(昼間・夜間想定)の実施で消防署から指導を受けています。また、緊急連絡網・非常時持ち出し書類もすぐに取り出せる場所に置いてあります。近隣の住民にもご協力をいただいています。	老人施設の災害被災の例を重く受けとめ、市がハザードマップを新たに作り提示したことから、事業所でも対策作りに取り組みたいと考えている。東日本大震災の体験から、災害時に必要となる石油ストーブ、灯油、カセットコンロ、ボンベなどは備蓄しているが、消費期限で消費してしまった水、米、ビスケット等や、ロールペーパー、歯ブラシ、はみがき等も備蓄したいと考えている。	災害時の対策の検討と不足している備蓄品の速やかな補充が望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様の人格尊重に努め常に名字で言葉を掛けて恥ずかしいこと(便所誘導など)は、ご本人の横に行きそっと誘っています。	一人ひとりにあった対応を心掛け、トイレの誘導も小さい声で誘い、失禁の際も他の利用者に気づかれないよう配慮して対応している。個人情報(事務所の鍵のかかる場所に保管し、事業所の発行する報告書などへの利用者の写真の掲載の可否を入所時に確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の気持ちになって日々のお話をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様の言動に合った一人ひとりのペースに添えるように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時には、洗面台で髪をとかしたり入浴後に着たい衣類などをご本人に尋ねたり準備して時節にあった衣類の選択を勧めたり月1度の散髪を実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑でご利用者様と一緒に収穫(かぼちゃ・きゅうりなど)した野菜を朝食やおやつに出したり時節に応じた献立を朝食に出しています。	朝食とおやつは職員が手作りし、昼食と夕食の副菜は食材会社のレトルト食品や市内の魚屋から総菜を購入している。ごはん・汁物と、副菜が少ない時の一品は職員が作っている。牛乳は夜に飲むようにし、畑で利用者が収穫した野菜も食卓に上がる。しもつかれや饅頭等の季節の行事食作りも好評で、利用者は楽しそうに参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	よく噛んで食べていただくために早いご利用者様には、「ゆっくり食べましょう」と言葉掛けをしたり日々の水分量を時間ごとに記入して少なめのご利用者様には好きな飲み物なども勧めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・毎食後・就寝前に歯磨き・義歯洗浄・口漱ぎを一部介助や言葉掛けで対応して就寝前に義歯をポリドントで消毒もしています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様一人ひとりに合わせた定時対応や時差などで言葉掛けをして便所に行くたび排泄の状況を確認しています。	自立の利用者も含め全員がリハビリパンツを着用し、一人ひとりにあった対応でトイレで排泄できている。トイレ内から浴室に行くことができ、汚した時に他に気づかれず対応ができるよう配慮している。夜間も自ら起きてトイレに行ったり、職員が起こして誘導したりするので、オムツは使用していない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便周期を排泄表以外に個人のバイタル表で確認したうえで3日以上便秘の場合申し送り下剤服用・牛乳を飲む・歩行運動などで排便を促しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者様が、週3回入れるように適宜対応しており時節に応じた演出もして入浴剤は毎回入れています。	月曜から土曜までの午後が入浴時間になっており、当番職員がひとりで1日4人か5人の入浴介助を行っている。浴槽が床面より低く設置されており、利用者を上げる時職員に負担がかかる。介助補助器具を導入したが負担軽減につながらず、現在は脱衣所から浴槽までの手すりの設置と、利用者の状況によって浴槽から上げる時に2人で介助するなどの工夫をしている。季節を感じる柚子や菖蒲、入浴剤をいれて入浴を楽しんでもらっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の居室内室温・灯り調節を確認したり寝具などで保温に努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬前に本人の横で氏名・服用時間・日付を声に出して確認して服用させています。内服薬のセットの時にも氏名・服用時間・日付を確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞折り・テーブル拭き・毎食前の号令などご利用者様に合った内容を見つけて対応しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じた外出・外食の計画やテラスでレクリエーションやおやつを食べています。	桜、つつじ、あじさい見学、紅葉狩り、リンゴ狩りなど季節毎の外出を計画し、それに合わせて利用者のリクエストを取り入れ、外食の機会も作っている。「寝たきりにはさせない」と毎日午後は筋力をつける体操をしたり、廊下を歩いたり筋力体力作りに入れている。月1回程度買い物デーを設け、希望する利用者とともに食べるおやつを買いにでかける機会を作っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からお小遣いを預かり月1回程度買い物に出掛け好きなものを購入しています。ご家族には月1回程度お小遣いの出資を見ていただきサインをいただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればご家族に電話をしてお話をしていたり手紙を送っていただきご本人に渡しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に時節に応じた装飾品を置きフロア内には月ごとのカレンダーを利用者様の塗り絵で制作して掲示しています。	居間は天井が高く、居室前の廊下とつながっていて広々と明るい。壁にある利用者手作りの月毎の大きなカレンダーや、飾られている花が季節を感じさせている。外出時の楽しそうな笑顔のスナップ写真も貼ってある。居間から続くウッドデッキは体操をしたりお茶を飲んだり外気浴をしたりと利用されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席の移動することで仲良し同士で世間話をしたり一人が良いというご利用者様も中には、いますので職員がご利用者様の間に入りお話をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様の居室にはご家族に依頼して以前使用していた家具・布団などを持ち込んでいただきご本人に見慣れたものを置いています。	居室には花の名がつけられている。それぞれの部屋のカーテンと壁紙の色模様が異なりドアを開けた時の印象が違って自室が分かり易く配慮されている。洋たんす、エアコン、ナースコールが予め設置されている。ベッド、寝具、テーブル、椅子、衣装ケースなどは好みの物を持参している。誕生日祝いの利用者の写真に家族の写真も添えられ飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全体的にバリアフリーだが気配りをしながら歩行の様子を見たり手すりの増設を検討しながら対応しています。		